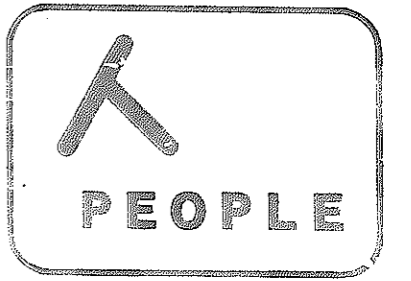


広報しろね

S·h·i·r·o·n·e

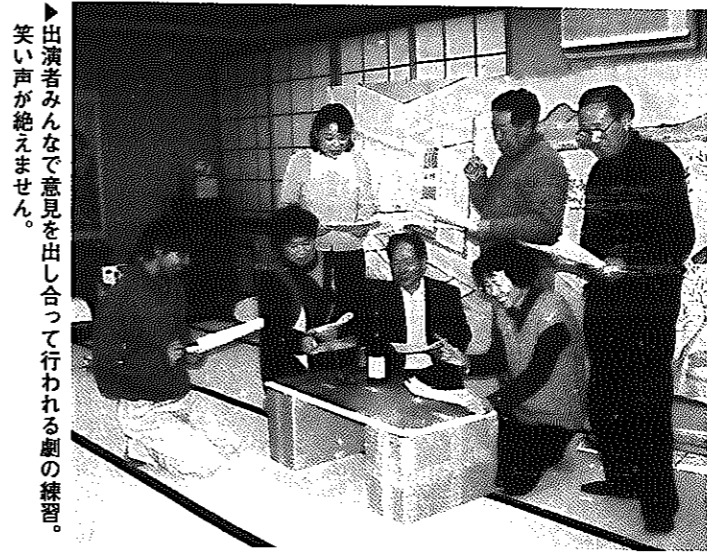
2000.3.1
No.564



東萱場の名女優



木下セツさん



▶出演者みんなで意見を出し合っている劇の練習。笑い声が絶えません。

茨曾根地区公民館と保健会の共催で、六年前から行われている「健康百歳教室」。「健康について学び、長生きしてもらおう」と、健康問題を盛り込んだ面白い劇が毎年上演されています。初回からこの劇に出演し「さんすけろんのばあ（おばあちゃん）」役で地域の人たちに知られているのが、木下セツさん（東萱場・六十一歳）です。

「身近な問題を取り上げた劇なので、見る人も『あーそうだ、そうだ』と笑ったり泣いたりして見てくれます。時期が近づくと『今年も見してくらっしえ』と、声を掛けられます。待っていてくれる人がいると、張り合いになりますね」と話す木下さん。

今年、痴ほうや塩分の取りすぎを取り上げた劇が茨曾根や白井地区で二月に上演され、大好評。3月には小林地区と月潟村でも上演されます。

また、市の体育指導員を十八年間していたこともあり、現在は「ゲートボールサークル「東萱場なかよし会」の指導もしています。「外に出ると気分も明るくなります。運動というより、お年寄りが楽しく寄り合う機会になれば」と言う木下さん。元氣と笑顔を運んでくれる、地域のアイドルです。

※資源保護のため再生紙を使用しています。※紙上の記事・写真の無断転用を禁じます。

古木老木の伝承

～ふるさとの木々～

クワ

葉は、カイコの飼料として知られています。中国北部から朝鮮が原産地とされ、日本には奈良時代以前にカイコと共に渡来し、植えられていました。江戸時代は生活制限令によって百姓の絹布の使用が禁じられていたため、栽培はあまり振るいませんでした。養蚕業が急激に発達したのは、明治中ごろです。大正八年から九年には糸価好況が反映して養蚕業は絶頂期を迎え、クワ畑がたくさん作られました。

しかしその後、糸価は下落。クワ畑は次々とナシ畑に転換されました。終戦後はアメシロ虫に枯らされ、今はほとんど見ることができません。



クワは、材としては柔らかく粘りがあり、農具・楽器・家具・細工物などに広く利用されました。樹皮の繊維からは、上質な紙が作られました。

花は春、穂状のものを咲かせ、初夏に赤色や紫黒色の小さな実を結びます。実は甘く、子どもたちが採って食べるおやつとなっていました。

昔は、六月一日を「キヌヌギ」といって「蛇がクワ畑で衣を脱いでいる」という言い伝えがあり、「畑に入ると死ぬ」と恐れられていました。また、クワには災いをはらう力があり、クワ畑にいれば落雷の災難から逃れられると信じられていました。

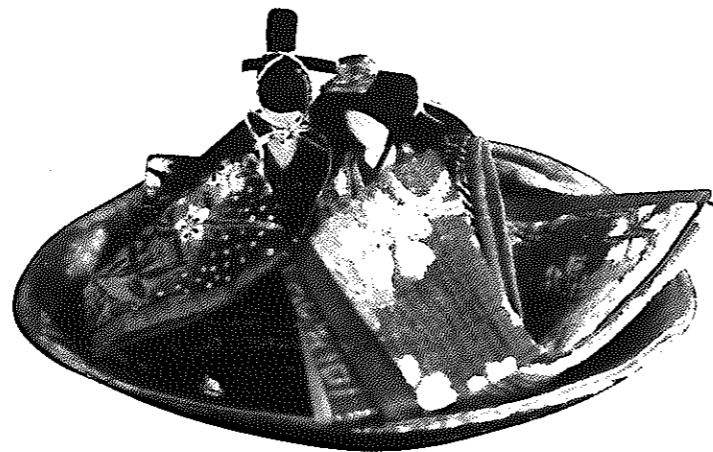
▶数字で見る市勢 ※2月1日現在 ※()内は前月比

人口	40,748人(+46人)
男	19,952人(+29人)
女	20,796人(+17人)
世帯	10,879戸(+18戸)
出生	27人
死亡	23人
1月中の転入	86人
転出	46人

◎室内2時間耐久レースの取材へ行って驚きました。上位に入賞するチームは、カルチャーセンターのランニングコースを1週約35秒のペースで走ります。テレビで見るマラソンランナーも同じくらいのスピードで、42.195キロを1人で完走するそうです。◎私もたまに走るときがありますが、まさにウサギとカメ。「どうしてそんなに速いの」と、カメはうらやましくてたまりません。(ま)

もうすぐ始まる

介護保険



市政クリップ(第1回・第2回市議会臨時会ほか) まちの話(茨曾根地区公民館「さいの神」ほか) お知らせ みんなのページ 広がり健康家族(旬を食べよう「イチゴ」) シリーズ・人